
Thanks My FanyLife

アルル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Thanks My FanyLife

【Nコード】

N7084I

【作者名】

アルル

【あらすじ】

これは詩と、歌詩です。自身の体験や、思想などを詰め込んでみました。昨今の若人は、なんてセリフがよく聞かれますが、僕からすれば、彼らの方が流動的です。そんな彼らに反発するような内容で書いてみました。

(前書き)

詩が好きな人には邪道と思われるかもしれませんが、それでもこれは、僕の心であり、信念です。ので、どうか不快に思われませんでしたら、何かしらのコメントをお願いします。

『アルルの詩』

リズムに合わせて弾む様に歩く猫。

満面の笑みを浮かべて駆け回る犬。

どっちがキミで、どっちが僕かな？

風が吹けば木々のオーケストラ。雨上がりはプリズムの宝箱。

何だってそう、僕等のものさ。・・・ひよっとして夢なのかな？

ともあれ二人は幸せさ。

お日様が帰っても大丈夫。見上げればどこにだって星の地図が広がってる。

いつかキミにプレゼントしたいな。

飛べなくってもへっちゃらさ。ペンギンみたいにダンスを踊ろう。

お客さんはお月様。祝福の moonlight。

僕とキミしかいないけど、ウソみたいに幸せさ。

走る力があっても、クツを履いてないから進めない。

言葉を持ってても、うまく話せないから話さない。

“その先”に何があるのか分からないから怖くて不安で、真っ直ぐ見ることが出来ない。

部屋には扉があるから外には出られない。窓から射し込む光にあこがれてるだけ。

(・・・ホントにそうかな？クツがあるならどれだけ進める？うまく話すってどんなさ。

“その先”には理不尽だって、そりゃいくらかもあるさ。でもきつと幸せだってあるんだぜ？

よく見てみなよ。扉には鍵なんて掛かっちゃいない。一步踏み出すだけで光は手に入る。(

ああ、そうさ。ホントは最初から解ってたんだ。何一つ決まっちゃいないって。

勇気を出して踏み出せば、“得る”事なんて容易い筈なんだ。

幸せでも、不幸せでも、それが全てなんだ。その全てが僕なんだ。

無視なんて出来ない。そうだろ？カミサマ……。

異端者が歌ってる。君にも聞こえるだろ？聞こえないフリしたってダメさ。

解ってるだろ？君には二つも耳が付いてんだ。無視しようなんてムリな話さ。

あきらめて一度、改めてもう一度。さあ、聞いてみなよ。

どうだい？もう逃げらんないぜ？二度目にはもうジャンキーだ。

HAPPY BIRTHDAY! You're "Just Dr
eamer"!

モウソウ家が描く夢。君も知ってるんだろ？目を逸らしたってムダさ。

解ってるだろ？君の目は“フシアナ”じゃないんだ。一度くらい見ちゃってるぜ。

あきらめて一度、僕と一緒に踊ってみないか？

どうだい？ヤメらんないだろ？僕らはステキな psychopass。

HAPPY? BIRTHDAY! We're "Just Stranger"!

今日も強風。おまけに雨降りで、凍える程寒い。

真っ暗だから前も見えないし、歩いてても歩いても進んだ気がしない。

目が“醒めて”からずっとこうだな。

そういえばいつからだっけか。・・・覚えてないや。

そういえばどうしてだっけか。辛くても進むのは。

“やめようか”。そう思えないのはどうしてだ？

苦しくても歩を進めるのはどうしてだ？

・・・そりゃそうか。止まってることの方がよっぽど耐えられないからだ。

そうだ。強く。僕に降りかかる全てを超えて、一歩。強く踏み出す一歩を重ねる！

いつか見たあの夢はどうした？無くなった訳じゃないんだろ？鏡に映ったMr.！

どんなに小さくたって、歩いていればいつか辿り着くぜ？

そうだろ？Mr. “Not” YESMAN！

忘れてしまった記憶がある

大切なものか、それとも、取るに足らないものなのか

それすらも、もう思い出せない

走り抜けて来たわけじゃないのに・・・

良い事も悪いことも、たくさんあったし、たくさんやった

楽しかったし、嬉しかった 淋しかったし、哀しかった

それを今、取り戻したいんだ

だからボクは僕であろう 僕のウタを 僕だけのウタを

本気で歌い上げよう

たとえこの先今みたいに、全て忘れてしまっても構わない
いつか“休む”その時には

今とは違って、晴れやかな顔をしてるはずだから

そして、もし許されるのならその時は誰かに

できれば大切に想う誰かに・・・

今日もまた雨が降ってる もうずっとだ

誰かが雨は天の泪だって言ってたっけ

嬉しくて泣いてるのか それとも・・・

「なあ、神サマ。どっちだい？」

答えは無いまま 相変わらず雨が降ってる

誰も“天気”なんか気にしちゃいない

でも、僕には分かってるんだ・・・

「なあ、神サマ。後者だろ？」

サクラ咲け “ヒト”の夢

サクラ散れ 僕の“ユメ”

それが“セカイ”の望みとあらば

僕は“スベテ”をたいらげましょう

「どうぞ召しませボクの命」

気の向くままに、思うがままに

お好きなように御遣りなさいな

いつか“キミ”の死が訪れるまで・・・

やりたいことなら 体感を拝借

知識手に入れりゃ 体験と解釈

理解不能だぜ？ 似非リアリストども！

“キレー”な世界の綺麗な光は 俺の眼には映らない

ホントの本当は醜く歪で 役に立たない代物だ

だけど本当を知ってるヤツは どんなことでも幸せなのさ

嘘にウソを重ねてるから 感情さえもマガイモノ

しまいには自分がどれなのか そんなことさえ分かりません

欲求不満は遊んで解消 負の感情は無くすべきもの

そんなの本気で信じてるのかい？

人の想いは楽しじゃないだろ？

忘れることでまた前進 無くすことはプラスの効果

そんなのホントに出来るのかい？

記憶はそんなに易くはないぜ！

『カラーひよこ』

「負の感情」

誰も“聞いて”くれない。誰も“見て”くれない。誰も“触れて”くれない。

だから、誰とも“ツナガラナイ”。

それはとても辛い。それはとても苦しい。それはとても悲しい。

だけど、私は“ミンナ”とは同じになれない。

それではダメなの？どうしても一緒にはなれないの？

“生きる”というのは、どどういう事なんだろう。

私は“生きて”いるのかな・・・。

生きていれば、いつか解るのかな。誰か教えてくれるのかな。それとも・・・。

染まっていく“セカイ”は、私を認めない。認められなければ、そこに私は居ない。

でも、“セカイ”には居なくても、世界には居る。居るんだ。・・・居るのに。

私は“鏡”には映らない。

だから、誰も私を“見る”事が出来ない。

だから、誰にも私の“声”は届かない。

だから、誰も私に“触れよう”なんて思わない。

だから、“ツナガル”筈がない。

それはとても悔しい。それはとても空しい。それはとても淋しい。

だけど、私は“みんな”とは同じにならない……。

だから、せめて、“生きた”証を。確かに在った、ここに在ったんだという証を。

残したい。……ああ、残したいなあ。

「虚無」

考えなければ評価されない。だから考える。

なのに、考えても評価されない。

頑張らなければ認められない。だから頑張る。

なのに、頑張っているのに、認められない。

ここに居ても良いと言っからここに居る。でも、そうすると疎まれる。

笑っていても良いと言っから笑ってる。でも、そうすると憎まれる。

生きていても良いと言っから生きてる。でも、そうすると阻まれる。

正しくあれと言われるからそうする。でも、そうするとバカだと言われる。

キレイであれと言われるからそうする。でも、そうすると妬まれる。

皆そうしなさいと言われた筈なのに。。。。

どういっことなの？どうすれば良いの？

どうすれば評価されるの？どうすれば認められるの？どうすればここに居ても良いの？

どうすれば笑っていても良いの？どうすれば。。。。

私は、生きていても良いの？

それとも、私はここに居てはいけないの？それとも、私はもう、ここには居ないの？

私は……。

どうして？私はここに居るのに。ワタシハココニイルノニ……。

……ダレカワタシヲミツケテクダサイ。

……ダレカワタシヲタスケテクダサイ。

……ダレカワタシニオシエテクダサイ。

ワタシハドウスレバイイノ？ダレカ……。

「望み」

誰かが言っていた。願い事はお星様について。

だから、願った。何度も、何度も、両手を重ねて。

けれど、ダメだったんだ……。

どのお星様にも、アタシの“コエ”は届かなかった。

すごく、オカシかった。何してるんだらうって。

声に出して笑った。涙を流しながら。

そして、思った。アタシはもう、ダメなんだ、と。

なのに、流れないんだ。エンドロールが。

だから、思った。“ココ”にまだ居たいと。

だけど、“マチガイ”なんだね。多分、きっと……。

そう、思ったんだ……。

ずっと、本当に長い間、闇の中に居たんだ。

“何も見えなくて”、何度も、何度も、躓いたんだ。

でもね、“泣かなかった”よ？

だって、そうしていたって誰も来ちゃくれないから。

だから強く、歩いてきたんだ。

“何も見えなくても”。どんなに怖くても。

ずっと、叫び続けてたんだ。

たとえ、“誰”にも聞こえなくても。

いつかきくと、目の前には誰かが。

たった一人でも、アタシと繋がる誰かが。

居ると信じて……。

欲しいのは光。光を目指しても良いという声。

そう言ってくれる誰かさん。居るのかどうかも分からない、不確か
な誰かさん。

いつか、空に向かって一杯に伸ばした手。

その細くて、弱くて、頼りない小さな手は、今、“太陽”を掴んだ
んだ。

黒かった世界に光が満ちて、踏み出す一歩が、その光が、はっきり
と見えたんだ。

なのに、オカシイなあ。今度は全部が滲んで見えるよ。

よく見えてたキミの顔も分からなくなっちゃった。

それなのに、この胸は温かくて……。

何だかよく分かんないや。でも多分、良いんだよね。

今はアタシの頭を行ったり来たりする、強くて、優しい大きなキミ
の手を、感じていれば。

ああ、時が流れ出した。アタシじゃともついでけそうもないや。

混ぜろつとしても、皆同じ色なのに、アタシのは違ってる。

すごく悲しくて、思わず涙が溢れた。

でも、その涙はすっかり乾いていたんだ。

手にした太陽が、明るくて、温かくて、そうして、優しいから。

二人ぼつちでも良いんだ。手を繋いでまっすぐ前を。

“誰”がどこで二人を見てるのか。そんなのもう分かってるよ？

けれど、どちらも仕方が無いから、それで良いでしょ？

頭のオカシな“色付き”の二人。

心のオカシな“色無し”の皆。

それでも二人は生きて行くのさ……。

「ラヴソング」

どこから話そうか。君は、何が聞きたい？

どこまで話そうか。君は、何が知りたい？

・・・なんてのはウソさ。何しろ僕は、何にも知らない。

だってそうだろ？僕等の事は全部知ってる。

知らない事を、知らないのさ。

僕等には何も無い。だから不自由だ。

僕等には何も無い。だから自由でいられるのさ。

なんてステキなんだろう。“ココ”に在るのは僕等だけ。

皆は“向こう”でパーティの真つ最中。

招待状は届かないけど、それで良いのさ。

僕等には、着ていく“服”が無いんだから。

それなら僕等は何をしようか。

不自由だけど自由だから、どんな事だって出来るぜ？

まずは、・・・そうだな。

どうせ“ヒマ”なんだから、「ラブソング」でも歌おうか。

もちろん、キミにさ。聴いてくれるかい？

・・・ああ、世界が滲む。なぜって？嬉しいからさ。

僕の声がキミに届く。そうして、キミが笑う。

僕の心がキミに届く。そうして、キミは笑う。

それ以上、望むものなんて僕には無い。つまり、幸せって事さ。

キミも、そうだろう？

冷たい“雨”も、強い“風”も、キミと行くなら怖くはないぜ？

僕と一緒に笑うキミ。キミと一緒に笑う僕。

幸せな僕等なら、“何だって”楽しめるのさ。

“シアワセ”なヤツ等には、きっと解らない。

だから僕等は二人で良い。それで、良いんだ。

時に涙する事もあるだろう。躓いて立ち止まる事も、きっとある。

でも、僕は笑う。“大丈夫”と言って、笑うのさ。

だって、そうだろう？そうすれば、キミは笑うんだ。

泣いても良いさ。そのまま、僕とキミ、二人で笑おう。

泣きながら、笑って、“歩いて”行こう。

“僕等の未来”は、きつと二人を待つてる。

だから今、二人、一步を刻んだ“昨日”にさよなら。

そして今、二人、一步を踏んで迎えた“今日”にようこそ。

二人の“ハッピーバースデー”。

色の抜けない、醜く愚かな、救い様の無い程キレイな、二人の“カラーひよこ”の誕生日。

ここから二人で歩いて行こう。僕らだけの未来へ。僕らだけの、“ハッピーエンド”へ……。

「できるじゃ」

今見渡すこの世界。

未だ見果てぬ彼の世界。

君が見たいのはどっちかな？

僕が見たいのはどっちだろう。

君が居たいのはどっちかな？

僕が居たいのは、分かってる。

何でもないんだ。本当は。

どうでも良いんだ。そんな事。

どうせ、諦められない。

考えるのも、迷うのも、最初から全部ムダなんだ。

君は何が欲しい？

僕は何が出来る？僕から、君へ……。

皆とは見てるものが違ってる。

皆とは見えるものも違ってる。

いつか見上げた高い空。目が眩む程のあの光。

僕の知ってるその世界。

君も知ってるあの世界。

何にも無いんだ。実際は。

だからこそなんだ。現実は。

それじゃダメかなあ……。

涙するのも、笑うのも、それが全てだと思ったんだ。

いつか、出来るなら。もしも、適うなら。君と、居たいな……。

時計の針は戻せない。そして、僕等は出会った。

笑って泣いて、また、笑って……。

“それ”はもう、戻らない。全部僕等のものなんだ。だからもう、離しはしない。

二人はいずれ朽ち果てる。それでも僕は構わない。君もそうだと信じてる。

だから君と解りたいんだ。君と感じていたんだ。まだ僕等が“ここ”に在る事。

スベテヨハコトモナシ。それは“どの世”の事だ？

オワリヨケレバスベテヨシ。それで？“誰”が笑ってる？

下手な芝居はもう止める！僕の隣で彼女が泣いてる。

賽はついに投げられた。

背を川どころか、既に四方は敵だらけ。随分と見晴らしの良いところで。

ほんならばちほち始めるかあ。いざ、尋常に勝負なり！

END

(後書き)

読了、感謝です。(読まれた方が居られましたなら)

如何でしたでしょうか？何か感じるモノが有りませんでしたでしょうか。人の想いは千差万別。共有自体が不可能です。然しながら、考える事くらいは出来るかなあと思います。どうも、有難うございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7084i/>

Thanks My FanyLife

2010年12月8日12時45分発行